

近江八幡市児童福祉の状況



平成27年6月

福祉子ども部 子ども支援課

近江八幡市の児童福祉等の状況

●近年、核家族化や都市化の進展等により、地域のつながりが希薄化し、子育てに対する不安感や負担感をもつ保護者の増加、地域や家庭での養育力の低下などが課題となっており、子育て家庭と子どもたちを社会全体で支援していくことが重要となっています。「近江八幡市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、①子どもの幸せを考えるまち、②子育てを地域ぐるみで支え合うまち、③次代の親を育成するまちを基本目標として施策の推進に努めます。

1 学区別・年齢別就学前児童数

(人) (H27. 4. 1) 年齢計算基準日 H27. 4. 1

学区	八幡		島		岡山		金田		桐原		馬淵		北里		武佐		安土		合計	
	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27	H26	H27
0歳児	172	163	12	15	97	93	172	171	149	123	31	21	38	45	27	38	99	122	797	791
1歳児	170	161	11	14	98	106	183	170	161	161	19	37	59	39	27	27	127	102	855	817
2歳児	161	157	11	14	105	103	171	168	142	161	20	22	55	58	40	28	111	131	816	842
3歳児	142	156	21	10	101	109	167	163	149	138	26	22	63	59	29	40	135	114	833	811
4歳児	146	133	12	21	103	101	161	157	147	153	29	26	52	65	40	30	123	139	813	825
5歳児	142	148	16	13	104	105	158	158	159	147	36	28	60	53	34	41	131	123	840	816
合計	933	918	83	87	608	617	1,012	987	907	883	161	156	327	319	197	204	726	731	4,954	4,902

2 幼稚園入園の状況

(人) (H27. 5. 1)

	八幡	白鷺	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	沖島	安土	老蘇	ひかり園	合計
3歳児	59	6	55	76	79	12	25	23	0	44	11	36	426
4歳児	64	13	58	84	88	23	36	18	0	78	15	18	495
5歳児	76	8	65	98	88	24	27	18	0	67	12	19	502
合計	199	27	178	258	255	59	88	59	0	189	38	73	1,423
H26年度	221	35	179	280	255	76	84	50	1	206	43	60	1,490

○認定こども園(市内3ヶ所) : 武佐、ひかり園(H25年度より名称変更)、白鷺(H27開設:旧島)

3 保育所(園)入所状況

(人) (H27. 5. 1)

	八幡	武佐	桐原	八王子	北里	紫雲	ひむれ	あおば	メリー	ひかり園	ありす	金田東	安土	らっこ	さく	白鷺	あい	合計
0歳児	1	4	4	3	8	0	7	6	3	3	5	8	9	6	2	2		71
1歳児	11	10	18	16	22	13	24	18	8	20	17	22	30	12	9	5		255
2歳児	18	15	25	17	24	16	22	17	13	20	18	25	37	12	9	6		294
3歳児	26	18	26	26	32	18	20	24	20	20	23	24	39	15	8	0		339
4歳児	20	13	28	23	32	15	18	25	14	25	24	19	27	14	6	0		303
5歳児	15	18	26	22	32	19	18	21	14	25	26	23	26	15	1	0		301
合計	91	78	127	107	150	81	109	111	72	113	113	121	168	74	35	13		1,563
H26年度	102	86	128	119	150	81	113	115	77	117	115	113	143	74	-	-		1,533

○認定こども園(市内3ヶ所) : 武佐、ひかり園(H25年度より名称変更)、白鷺(H27開設)、あいアイランド(H27開設)

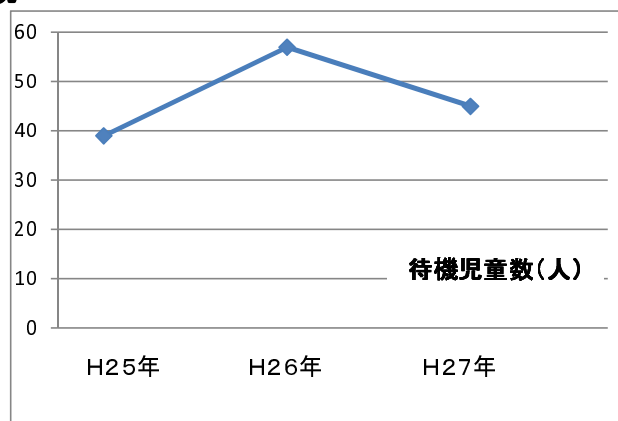
4 幼稚園入園・保育所入所・認定こども園・待機児童数の状況

(人)

	H25	H26	H27
就学前児童数 ※	4,901	4,954	4,902
内幼稚園児童	1,468	1,491	1,423
差引児童数	3,433	3,463	3,479
入所希望者数	1,542	1,601	1,617
入所児童数	1,503	1,544	1,572
入所割合：%	97.5%	96.4%	97.2%
待機児童数 ※	39	57	45

(H27. 5. 1) 年齢計算基準日H27. 4. 1

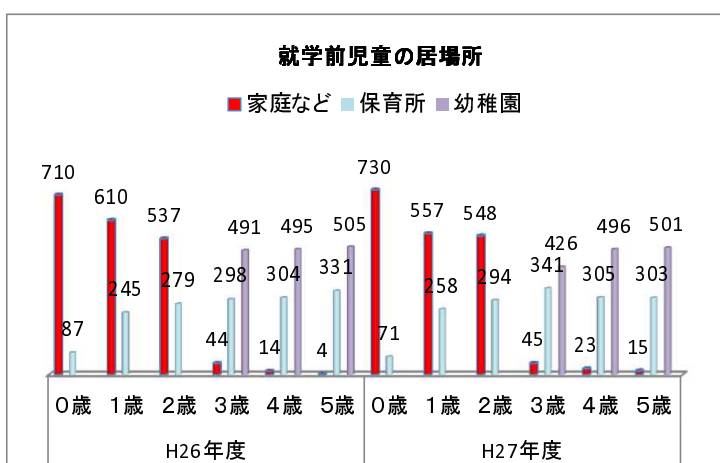
※就学前児童数、待機児童数は、H27.4.1現在の値



5 就学前児童の居場所

(人) (H27. 5. 1)

		居場所		
		家庭など	保育所	幼稚園
H26年度	0歳	710	87	
	1歳	610	245	
	2歳	537	279	
	3歳	44	298	491
	4歳	14	304	495
	5歳	4	331	505
H27年度	0歳	730	71	
	1歳	557	258	
	2歳	548	294	
	3歳	45	341	426
	4歳	23	305	496
	5歳	15	303	501



※保育所については、途中入所決定者は含まれていない。

※保育所にはこども園(長時部)226人、地域型保育事業13人が含まれ、幼稚園にはこども園(短時部)159人が含まれる。

※広域入所児童数9人が含まれているので、3. 保育所(園)入所状況とは合致しない。

※3歳児～5歳児は幼稚園か保育所(園)にほとんど在籍しているが、83人が家庭保育になっている。
ただし、認可外保育施設に在籍している児童数は家庭などに含まれる。

※乳幼児(とくに0～2歳児まで)は、家庭保育となっている者が多く、地域の関係が希薄になる中で、子どもが両親以外の人たちと接する機会が少ないと予測される。

6 その他の保育施設の利用状況

(H27. 5. 1)

認可外保育所	保育所名	入所児童数(月極め)						
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
	ファミリーホームさくら	3	7	4	2			16

7 病後児保育施設利用状況(民間医療機関に委託)

延べ利用人数

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
のべ人数	249	226	267	382
開設日数	288	276	268	281

* 児童が病気回復期に集団保育が困難な期間において、看護師、保育士等が看護・保育を行う。

8 ファミリー・サポート・センターの利用状況

〈活動実績・基本事業〉

(件)

総合援助活動の取り組み内容	活動件数		病児・病後児の預かり ※	
	H25年度	H26年度	H25年度	H26年度
保育所・幼稚園の登園(所)前の預かり及び園への送り	162	2	39	75
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	124	78		
小学生の放課後の預かり	175	375		
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	306	35		
幼稚園・学校等休み時、習い事時の援助	72	346		
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	319	256		
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	0	2		
買い物等外出の際の子どもの預かり	290	112		
その他(保護者の病気、未就園児の援助等)	8	13		
合計活動件数	1,456	1,219		
援助会員数	409	138		

※病児・緊急対応強化事業

・小学生の放課後の預かりが増加しており、援助する子どもの年齢が全体的に高くなっている。

・子どもの習い事等の場合の援助が増加している。

9 放課後児童クラブの利用状況

(H27. 5. 1現在)

クラブ名	施設名称	登録児童数	備考	運営主体
八幡学童保育所 げんきクラブ	八幡こどもの家	56		NPO法人
島の子フレンズ	島こどもの家	11		保護者会
岡山学区寺子屋「水茎」	岡山こどもの家	59		NPO法人
金田学童保育所 第1つちのこクラブ	金田第1こどもの家	62		〃
金田学童保育所 第2つちのこクラブ	金田第2こどもの家	62		〃
桐原学童保育所 風の子クラブ	桐原東こどもの家	48		〃
桐っ子夢クラブ		39	桐原幼稚園内	保護者会
クラブ・ド・パロウニア		40	〃	〃
馬淵放課後児童クラブ 馬っ子	馬淵こどもの家	29		NPO法人
北里スマイリークラブ	北里こどもの家	23		保護者会
武佐放課後児童クラブさん・ちるどれん		10	武佐小学校内	〃
安土学童第1ひまわりクラブ	安土第1こどもの家	51		学校法人
安土学童第2ひまわりクラブ	安土第2こどもの家	53		〃
老蘇学童保育所スマイル		23	老蘇小学校内	NPO法人
さくら学童クラブ		39		認可外保育施設
のぞみ保育所第1学童クラブ		52		〃
のぞみ保育所第2学童クラブ		43		〃
キッズクラブまあむ1		27		NPO法人
キッズクラブまあむ2		38	金田幼稚園内	NPO法人
学童クラブ「おかえり」		46		〃
合 計		811		

※平成26年度においては、安土こどもの家の増築により10月から2クラブでの運営となったこと、北里小学校敷地内に北里こどもの家を新築したこと、ならびに島コミュニティセンターに隣接する市有地にて島こどもの家を新築し、施設整備をすすめた。

10 子どもセンター(児童館運営事業)の状況

①児童館運営び運営児童の状況

(来訪者:延べ利用人数)

	八幡子どもセンター			八幡東子どもセンター			八幡西子どもセンター		
	乳幼児	小学生	中学生	乳幼児	小学生	中学生	乳幼児	小学生	中学生
H24年度	4,104	1,615	704	2,655	5,152	1,068	6,704	2,518	585
H25年度	4,652	1,977	478	2,711	4,403	761	6,401	2,013	524
H26年度	3,456	1,063	543	2,375	4,247	756	6,134	1,035	421

②プレイセンターモデル事業

	H24年度	H25年度	H26年度
実施回数	8	33	20
参加組数	7 ~ 13 組	17 ~ 46 組	7~13

子育て中の保護者が自ら学び、自信を持って子育てができるように遊びの場を通じて子育て、親育ちを支援するものである。親同士で自ら集い、子育て家庭同士での交流の場を自ら作り広げていけるよう、「主体的に考え行動できる人材」の育成を期待するものである。

※H25年度の事業は、第1期生・2期生が重なった活動時期があった。

11 親子プレイステーション事業 参加状況

(1回あたりの平均組数)

	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土	合計
H25年度	12.6	6.4	9.9	19.1	11.3	8.6	12.2	5.6	25.9	12.4
H26年度	10.2	6.8	13.6	17.1	14.3	8.5	13	5.9	16.4	11.8

* 親子プレイステーション事業は、まちづくり協議会主催によるものである。

12 子育て支援センター参加人数

(利用者延べ組数)

	H24年度	H25年度	H26年度
子育て支援センタークレヨン	1,782	2,248	2,437
安土子育て支援センター	3,599	3,669	3,814

※子育て支援センタークレヨンは、0歳~2歳までの子育て教室を展開し親同士の交流等を図るために人数制限(予約制)にしている。また、H25年度から八幡学区にて遊びの出前を始めた。

13 つどいのひろば(委託)

(H26年度 延べ利用組数)

NPO法人ほんわかの家	延べ組数:3,776組 会員組数:3,518組 (内新入会員:188組)
近江八幡社会福祉協議会あいあいの家	延べ:1074組

※ほんわかの家は、会員制をとっている。

14 ひとり親家庭の状況

区分	世帯数			
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
母子家庭	870	883	880	881
父子家庭	75	82	93	104
市全体(外国人含む)構成比	3.0%	3.1%	3.1%	3.1%

(1)ひとり親相談

相談内容	件数		
	H24年度	H25年度	H26年度
児童扶養手当	328	266	238
児童・家庭	653	628	682
就労	387	337	330
住宅	22	39	50
母子寡婦福祉資金	456	405	510
生活保護	42	43	49
その他	212	241	164
ひとり親相談件数	延 2,858	延 2,759	延 2,718

(2)児童扶養手当支給事業

	H24年度	H25年度	H26年度
対象者総数(人)	711	773	722
全部支給者	366	361	343
一部支給者	248	302	275
全部停止者	97	110	104
総支給額(千円)	294,064	296,910	296,826

※児童扶養手当の額

全部支給 月額 42,000円、一部支給 41,990円～9,910円、2人以上の場合は、5,000円の加算、3人以上3,000円ずつ加算がある。また、所得の制限がある。

15 市子ども発達支援センター運営事業(児童発達支援(ひかりの子)の事業)の状況

・発達に支援の必要な乳幼児と保護者が通所し、日常生活における基本的動作の指導や集団生活への適応訓練を行い、当該児童の成長を図るとともに、保護者に対する養育上の指導及び相談を行う。(親子療育)

※近江八幡市・竜王町の1市1町で運営を行っている。(平成26年度より、近江八幡市単独運営)

*利用児童状況

	H25年度	H26年度
利用実人員	112人	110人
年間延べ利用児童数	3,816人	3,123人

*対象児童の家族に対する支援

ケース検討会	6回
グループワーク学習会	103回
理学療法士個別指導	4回
共同学習会	5回
健康管理指導	16回
言語療法士個別指導	3回
作業療法士個別指導	22回
食事栄養指導	2回

※平成25年度より、随時入所の為、利用延べ人数で記載

(参考) H24年度 ひかりの子利用児童数

通園85人、相談90人

16 市子ども発達支援センター運営事業(保育所等訪問支援事業)の状況

* 利用児童状況

	H26年度
利用実人員	60人
年間延べ利用児童数	541回

※H.26年2月より、保育所等訪問支援事業を開始しました。

17 親と子の遊びの教室(ピッコロ教室)

- ・乳幼児期において、何らかの発達上課題を有する児とその保護者に対して、その課題の解決を図りながら、保護者がよりよい子育てを考え、実践することを目的としている。
- ・実施主体は、平成25年度より障がい福祉課発達支援室。
- ・発達相談で発達の課題が把握され、この教室による支援が必要と判断された対象児と保護者が対象。ただし、児童発達支援事業による支援(療育)が必要と認められ、かつ児童発達支援事業の利用について、保護者の合意が得られている場合を除く。

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
実組数	54	59	30	33
延組数	310	272	176	155

- ・平成26年度より、プレ療育教室となり、必ず事前に発達検査を実施。6回通所を目安にし、教室での様子や直近の発達検査結果等から、「療育」か「卒業」と処遇を検討。

18 子ども家庭相談室の状況

(1) 家庭児童相談ケース数経年比較(要保護+養護+単発相談)

年 度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	
A 児童人口	14,836	14,882	14,906	15,004	15,009	15,168	
B 家庭児童相談件数	391	428	432	531	513	546	
相談率(B/A)	2.6%	2.9%	2.9%	3.5%	3.4%	3.6%	
C 内、児童虐待実数	268	267	233	291	312	247	
児童虐待発生率(C/A)	1.8%	1.8%	1.6%	1.9%	2.1%	1.6%	
虐待種別	D 身体的虐待件数	87	113	116	106	118	113
	構成比(D/C)	32.5%	42.3%	49.8%	36.4%	37.8%	45.7%
	E 性的虐待件数	2	2	1	0	3	2
	構成比(E/C)	0.7%	0.7%	0.4%	0.0%	1.0%	0.8%
	F ネグレクト件数	147	130	93	145	163	116
	構成比(F/C)	54.9%	48.7%	39.9%	49.8%	52.2%	47.0%
	G 心理的虐待数	32	22	23	40	28	16
	構成比(G/C)	11.9%	8.2%	9.9%	13.7%	9.0%	6.5%

※児童人口は、各年度の3月31日現在、0歳～18歳の人口

※H21は旧近江八幡市+旧安土町、H22から新近江八幡市

(2) 平成26年度 要保護児童ケース状況

①新規・再開内訳

	新規	再開・継続	計
実数	61	186	247
構成比	24.7%	75.3%	100%

②年齢構成別内訳

	0～3歳未満	3～学齢前児童	小学生	中学生	高校生・その他	計
実数	31	82	79	25	30	247
構成比	12.6%	33.2%	32.0%	10.1%	12.1%	100%

③年齢構成別・虐待種別内訳

	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	計
0～3歳未満	14	0	12	5	31
3歳～就学前児童	46	0	31	5	82
小学生	36	2	39	2	79
中学生	10	0	13	2	25
高校生・その他	7	0	21	2	30
計	113	2	116	16	247

④主な虐待者内訳

	実父	実父以外の父親	実母	実母以外の母親	その他	計
実数	50	13	181	1	2	247
構成比	20.2%	5.3%	73.3%	0.4%	0.8%	100.0%

(3) 平成26年度 就学前児童のうち保護及び養護に至った数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
要保護	9	4	8	6	7	4	38
養護	5	1	2	2	1	1	12
計	14	5	10	8	8	5	50

・平成26年度に関しては要保護児童数が減少しているが、総相談件数は増加している。虐待家庭、要支援家庭の抱える問題は年々複雑化、多様化しており、短期間で解決に至るケースは少なくなっている。

・要保護児童対策地域協議会においては、関係機関と連携し、児童虐待の早期発見やケース支援を実施している。要保護・要支援児童家庭は、ひとり親や経済的困窮、保護者や子ども自身が抱える障がい、地域から孤立している等多種多様な問題を複合的に抱えており、集団の場面等様々な社会資源を活用しながら、子ども達の安全確認や成長発達の場を確保していくことが必要である。また、虐待の対応だけでなく虐待の未然防止のための育児支援についても充実する必要がある。

